

ISO/TC20「航空機および宇宙機」

第51回 ワシントンDC国際会議報告

ISO/TC20「航空機および宇宙機」技術委員会第51回国際会議に参加したのでその概要を報告する。

1. はじめに

ISO (International Organization for Standardization、国際標準化機構) は、様々な重要技術分野において国際的な標準化や規格策定を推進するために1947年に設立された、スイスのジュネーブに本部を置く国際機関であり、この下には244のTC (Technical

Committee、技術委員会) が設置されている。その中で航空機および宇宙機に関する国際規格を扱うTC20は、国際投票権を有する13ヶ国 (Pメンバー国) と投票権を持たない26ヶ国 (Oメンバー国) から構成され、下部組織として11のSC (Sub Committee、分科委員会) が設置されている。(表1参照)

表1 ISO/TC20構成

ISO	議長国	幹事国
TC 20 航空機および宇宙機	アメリカ	アメリカ
SC 1 航空宇宙電気系統の要求事項	フランス	中国
SC 4 航空宇宙ボルト、ナット	ドイツ	ドイツ
SC 6 標準大気	ロシア	ロシア
SC 8 航空宇宙用語	ロシア	ロシア
SC 9 航空貨物及び地上機材	アメリカ	フランス
SC10 航空宇宙用流体系統及び構成部分	ドイツ	ドイツ
SC13 宇宙データおよび情報転送システム	ブラジル	アメリカ
SC14 宇宙システム及び運用	アメリカ	アメリカ
SC16 無人航空機システム	アメリカ	アメリカ
SC17 空港インフラ	アメリカ	アメリカ
SC18 材料	フランス	フランス

2. 概要

TC20第51回国際会議の開催場所および日程は次の通り。

- 場所：AIA本部、米国バージニア州アーリントン
- 日程：2017年9月21日～22日

議長国アメリカをはじめ、日本、イギリス、フランス、ドイツ、ロシア、中国、韓国と、ISO本部 (スイス) 合わせて9ヶ国/組織か

ら28名が参加、日本からはTC20国内委員長 開沼氏 (川崎重工(株)) と国内事務局 原野 (SJAC) が参加した。

3. 会議結果

(1) 国際議長の交代

2018年末で任期の切れるAIAのRusty Rentsch氏の後任として、同じくAIA宇宙システムVice PresidentのFrank Slazer氏が選任された。

(2) ISO中央事務局からの報告

ISO本部からの指示事項の紹介（文書番号N3761）と、WebExを用いた仮想会議による業務の効率化と議長・事務局のトレーニングの有効性についての説明があった。

(3) WPI（Work Program Item、業務プログラム項目）の確認

前回の第50回国際会議以降のWPIに関し、国際事務局より進捗の報告があった。

この中で、米国より既存規格の定期見直し案件について、参照先が古いものや禁止された材料の使用が記述されているもの等が散見される、との問題提起があった。

懸念事項としては、それらの過去の規定をチェックし、更新の是非を確認できる専門家がなくなっている、とのこと。

これに対し、TC20国際議長が各国に当該懸念事項について展開するとともに、議論が深まるまで定期見直し投票を停止することが合意された。

また、TC20に戻されている多数の規格について、既存のSCに検討を割り当てるためのタスク・グループを、議長が招集することが合意された。

(4) SC1報告

SC1/WG13部会長がアメリカ人であるにもかかわらず、アメリカがSC1のPメンバー国として参加していないのはISOルール違反である、との問題提起があり、来年のSC1国際会議までにアメリカがPメンバー国へ復帰するよう要請があった。

(5) SC4報告

Pメンバー国、特にアメリカに対してより積極的な会議への参加要請があった。

また、SC4国際議長がドイツのRalf Gevers氏から同じくドイツのRalf Schomaker氏に交代することが紹介された。

(6) SC6報告

より多くの国、特にアメリカ、日本、ブラジルがPメンバーとして参加するよう要請があった。並行して現在Pメンバー国であるカザフスタンとウクライナに対し、より積極的に業務に参加するよう促すことが合意された。

アメリカより、既存のNASAやNOAAの標準との違いや重複に関する説明要請があった。

(7) SC8報告

新たな議長として、ロシアのTatiana Ksenevich氏が業務を開始していることが紹介された。

また、前回のSC8国際会議以降、活動が滞っていることが懸念されており、メンバー国に対し一層の努力を促すこととなった。更に、アメリカ、イギリス、日本、ブラジルに対しPメンバーとして参加するよう要請があった。

この他、全てのTC20の分科委員会に対しSC8とのリエゾン関係を確立し、TC20全体で用語の調和を図ることが決定された。TC20国際事務局は、過去にウクライナが作成した900ページを超える用語定義のデータベースを利用すべく、文書番号N3797として近日中に最新版を公開することとなった。

(8) SC9報告

TC20からSC9へ、規格番号ISO46（Fuel nozzle grounding plugs and sockets）を移管することが合意された。

更にSC10からSC9へ、規格番号ISO2026（Connections for starting engines by air；現在は撤回されている）、ISO45（Pressure refuelling connections）、ISO102（Gravity filling orifices）、ISO1034（Ground air-conditioning connections）、およびISO17775（Ground-service connections - Potable water, toilet-flush water and toilet drain）の5件を移管する要請があった。

この他、ISO規格における民間航空規則の参照について問題提起があり、ISO中央事務局に対して、参照のルール、ガイダンスといった対応方針を定めるよう要請があった。

(9) SC10報告

特に問題なく、年次活動報告が承認された。

(10) SC13 (報告なし)

議長および事務局は欠席。

TC20よりSC13に対し、報告書を適時に提出するよう強く促すことが決定された。

更に、任期切れで議長を退任するブラジルのBergamini氏の後任を、早急に選出するよう促すこととなった。

(11) SC14報告

積極的にSC6の活動と連携を取っていく方針が確認された。

(12) SC16報告

本年11月のSC16国際会議開催場所について、韓国または日本と記載された件に関し韓国代表より「既に費用をかけて会議場等の準備をしているのに何故日本を追記するのか」との異議が出された。

前回会議で韓国開催が合意されていたものの、昨今の北朝鮮情勢を鑑みて事務局が代替場所を示したことによる。

韓国代表の異議を受け、開催場所は韓国と決定された。

(13) SC17報告

特に問題なく、年次活動報告が承認された。

(14) SC18報告

6件の規格をSC18に移管することが承認された。

また、本年12月に開催される第1回SC18国際会議に対し、TC20からSC18の全Pメンバー国に対し専門家を出席させるよう促すこととなった。

この他、初回の会議からTwinning（発展途上国Pメンバー優遇制度）によりSC18事務局

を担当したいとの申し入れが、中国より提出された。

(15) TC20ビジネスプラン策定について

2014年に作成されたTC20ビジネスプランの更新版を策定するため、タスクチームを創設することが合意された。本年末までにアメリカ、フランス、イギリスが参加してタスクチームの会議が開催される予定である。

(16) 他TCとのリエゾン報告

TC258（プロジェクト、プログラム、ポートフォリオマネジメント）とのリエゾン関係を中止することが決定された。

またSC18に対し、材料に関連しているISOの各委員会に関してリエゾンの可能性を調査するよう指示が出された。

更にTC20として将来のサイバーセキュリティに対応すべく、TC307（ブロックチェーン及び電子分散台帳技術）とのリエゾン関係構築を探求していくこととなった。

(17) 関連機関からの報告

ASTM International、AIA、AIAA、ASD-STAN、BNAE、IAEG/IAQG、およびSAE Internationalからの概要報告があった。

TC20より、ASTM International F47（民間宇宙利用）とSC14の間で活動の重複や書類のオーバーラップを防止するため、緊密に調整を行うよう要請した。

(18) TC20に影響する地域活動について

ヨーロッパのREACH規則（化学物質の使用規制）に対し、既存のTC20関連規格への影響とTC20関連規格見直しの要否について議論を行った。結論として、ISO中央事務局にREACH規則や類似の化学品および材料制限等の環境規則に対するガイダンスの提供を求めることとなった。

次回のTC20国際会議において、各SCが関心のある規定について議論することとなった。

4. 今後のTC20国際会議について

次回、第52回TC20国際会議は、2018年10月8日（月）～12日（金）の日程で東京にて開催されることが決定した。

更に、次々回の第53回会議は、2019年10月14日の週にイギリスで開催されることが合意された。



集合写真



会議風景

5. 所感

航空宇宙分野における国際規格において、アメリカとヨーロッパ勢、特にフランスとの間で主導権争いが存在していることを実感した。

それに加え、中国が「発展途上国」の立場

を利用して、SC1事務局だけでなくSC6副議長および副事務局を担当し、更にはSC18事務局にも率先して立候補している状況から、国策に基づく情報収集体制の強化、国際的プレゼンスの向上を目指していることを、改めて感じた。

〔川崎重工業(株) 開沼 史和、(一社)日本航空宇宙工業会 原野 清隆〕